

## 第6 平成18年中に発生した 主な災害・事故について

# 1 平成18年豪雪について

## (1) 概 要

平成17年12月から平成18年1月上旬にかけて、日本各地で低温になるとともに、日本海側を中心に大雪となり、また、1月中旬以降も日本海側の山沿いを中心に大雪となる日がたびたびあった。気象庁が積雪を観測している339地点のうち23地点で積雪の最大記録を更新し、また、12月としての最大記録を106地点で、1月としての最大記録を54地点で、2月としての最大記録を18地点で、3月としての最大記録を4地点で、4月としての最大記録を17地点で更新した。

気象庁が「平成18年豪雪」と命名したこの大雪の影響により、屋根の雪下ろしなどの除雪作業中の事故や家屋の倒壊等が多発し、昭和56年に並ぶ戦後2番目の記録となる152名の死者となった。

平成18年豪雪による152名の死者のうち、65歳以上の高齢者が99名と約3分の2を、また、屋根の雪下ろしなどの除雪作業中の死者が113名と約4分の3を占めている。さらに、除雪作業中の死者113名のうち65歳以上の高齢者は76名となっている。

## (2) 被害状況（平成18年消防白書より）

人的被害：死者152名、負傷者2,145名

住家被害：全壊18棟、半壊28棟、一部損壊4,667棟 など

## (3) 石川県内における被害状況

### ① 人的被害の状況

ア 死者 6名

- ・雪の重みで家屋が倒壊し生き埋め（白山市2名）
- ・屋根の雪降ろし作業中の事故（白山市1名、津幡町1名、能登町1名）
- ・除雪作業中の事故（能登町1名）

イ 重傷 11名

白山市（9名）、輪島市（1名）、羽咋市（1名）

ウ 軽傷 13名

金沢市（2名）、小松市（1名）、輪島市（1名）、白山市（7名）、穴水町（2名）

### ② 住家被害の状況

エ 全 壊 1棟

白山市左礫地内（1/5 雪の重みで家屋倒壊）

オ 半 壊 なし

カ 一部損壊 3棟

内灘町（1棟）、津幡町（2棟）

キ 床上浸水 1棟  
金沢市(1棟)

ク 床下浸水 6棟  
金沢市(6棟)

③ 非住家被害の状況 28棟

金沢市(6棟)、七尾市(4棟)、輪島市(3棟)、加賀市(3棟)、白山市(2棟)、  
能美市(1棟)、津幡町(1棟)、内灘町(1棟)、宝達志水町(2棟)、中能登町(4棟)、  
穴水町(1棟)

④ 雪害対策本部の設置状況

津幡町(12/19 9:30設置 12/26 10:00解除)

白山市(1/6 11:00設置 2/28 16:00解除)

## 2 平成18年6月から7月にかけての豪雨について

### (1) 概 要

平成18年は、6月5日の沖縄県の大雨から始まり、6月26日から7月2日にかけての九州地方を中心とする梅雨前線による集中豪雨、7月15日から24日にかけての西日本を中心とする集中豪雨（気象庁は「平成18年7月豪雨」と命名）、全国各地に甚大な被害をもたらした。

特に、「平成18年7月豪雨」と命名された豪雨災害では、7月15日から24日にかけて、活動が活発化した梅雨前線が本州から九州にかけて停滞し、九州、山陰、北陸、長野県などで記録的な大雨となった。このうち15日～18日、23日ごろにかけては山陰、北陸、長野県、19日から23日ごろにかけては九州が雨の中心となった。

7月15日から24日の総雨量が、宮崎県えびの市で1,281mm、鹿児島県さつま町紫尾山で1,264mmとなるなど、年間降水量の3分の1に達するほどの雨が降った。

九州の多数の観測地点で、雨量が観測史上最多を更新した。

九州南部の国見山地、出水山地、霧島山周辺で特に降水量が多く、この付近は7月15日から24日の降水量がおおむね700mmを超えた。

### (2) 被害状況（平成19年消防白書より）

人的被害：死者32名、負傷者64名

住家被害：全壊313棟、半壊1,457棟、一部損壊368棟 など

### (3) 石川県の被害状況

#### ○7月12日から13日にかけての大雨

梅雨前線が北陸地方沿岸に停滞した影響で、県内は降り始めから13日朝方までに珠洲市や輪島市を中心に100mmを越える大雨となった。

この大雨で能登地方を中心に土砂崩れや住家の床下浸水等が発生した。特に能登町では住家5棟と非住家2棟に床下浸水があり、がけ崩れが輪島市で3箇所、珠洲市で2箇所、能登町で1箇所発生し、輪島市光浦町では落石による店舗の一部損壊があった。

#### ○7月15日から19日にかけての大雨

日本海から北陸にのびる梅雨前線の活動が活発となり、強い雨雲が北陸地方に次々と流れ込み能登北部や加賀南部を中心に大雨となった。

15日の朝には能登北部の輪島市や能登町で1時間に70mmを越える記録的短時間大雨を観測した。この影響で輪島市や能登町などで山、がけ崩れや浸水害が発生した。

その後、前線はゆっくり南下し、加賀南部では、16日宵のうちから17日の朝のうちまでに、100mmを越える大雨となった。加賀南部の小松市や加賀市では多数の床上、床下浸水が発生し、加賀市では各地区や町に避難勧告が出された。

梅雨前線は、17日には近畿から東海地方へ南下したため、雨は小康状態となったが、18日の夕方から再び北上し活動が活発化した。このため、加賀南部で19日朝までに150mmを越える大雨となった。この影響で、加賀南部の小松市や加賀市では再び浸水害や山、がけ崩れが発生し、避難勧告等が出された。